

発表タイトル	考古遺跡のドキュメンテーションに関する基礎的研究
発表者所属名	国際日本研究専攻
発表者氏名	宇佐美 智之

本発表は、考古学における遺跡のドキュメンテーションの方法について考察することを、目的としている。

これを達成するため、まずは、考古学において一般的におこなわれるドキュメンテーションについて検討する。次いで、従来のものとはことなるころみの一例として、ウズベキスタン・サマルカンドに所在する都市遺跡の調査／研究の実践例を示しながら、その視点やとりくみの内容を確認する。これらの作業をつうじて、後者でなされているドキュメンテーションの学術的意義を明確にしつつ、なお残る問題や次の課題を見出し、今後の展望を述べる。

このなかでとりあげるドキュメンテーションの実践例にかんしていえば、巨大な遺構から微細な遺物まで、ほぼすべての発掘資料の位置（空間）情報が取得され、統一的に管理されている点に、特徴がある。これにより、さまざまな性質をもつ、さまざまなスケールのデータが相互に結びつく（Fig.1.）。本発表では、このことの意味についても言及したい。

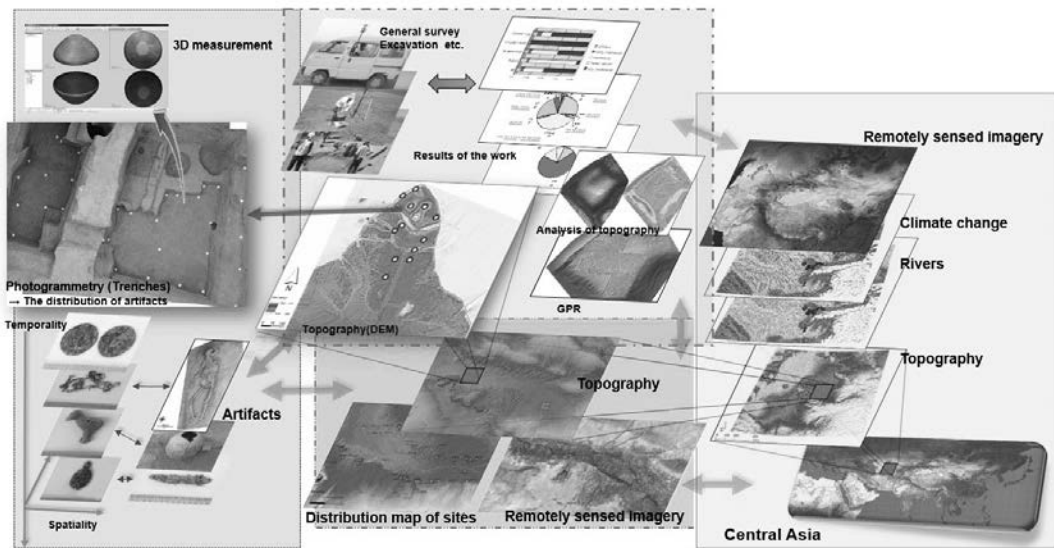


Fig.1. Documentation and Data Integration